

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	英語 I B (English I B) 111007-14000					担当教員	広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
英語の読解力・スピーキング能力・ヒアリング能力の基本を身につけることを目標とする。具体的には、第1に英語の言語構造・文法の本質を理解する基本トレーニングを徹底して行う。第2に英語のスピーキング能力を上げるトレーニング、第3に英語のヒアリング能力を向上させるトレーニングを実施する。第4にTOEICテストへの対応力をつける学習を行う。授業内容は初級レベルである。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
コミュニケーション能力
③ 授業の進め方・指示事項
●英語学習は、確実な積み重ね型の学習なので、毎回の授業内容の十分な理解と定着が重要である。授業内トレーニング、課題等に意欲的に取り組むこと。 ●長岡大学米百俵ドリル「スタンダードコース」での自習も忘れないこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 英文法の基本事項が理解できること。(長岡大学米百俵ドリル「スタンダードコース」の学習を含む。) (ii) スピーキングとヒアリングの基本が理解できること。 (iii) TOEIC に関する基本的学習ができること。
⑥ テキスト (教科書)
学習資料を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
Jonathan Lynch, 委文光太郎 (2020) 『英語で考え、英語で発信する 2』成美堂

⑧ ループリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 英文法の基本事項理解 (米百俵ドリルを含む)	英文法の基本事項に関して資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	英文法の基本事項に関して資料等に頼らず説明できる。	英文法の基本事項に関して資料等を参照しながら説明できる。	英文法の基本事項に関して資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	英文法の基本事項に関して資料等を参照しても教員等の支援を得ても説明できない。
(ii) スピーキングとヒアリングの基本的理解	スピーキングとヒアリングの基本的能力を授業内容を超える水準で自力で示すことができる。	スピーキングとヒアリングの基本的能力を自力で示すことができる。	スピーキングとヒアリングの基本的能力を不十分ながら自力で示すことができる。	スピーキングとヒアリングの基本的能力を教員等の支援を得て示すことができる。	スピーキングとヒアリングの基本的能力を教員等の支援を得ても示すことができない。
(iii) TOEIC 基本対応	TOEIC 基本対応に関する能力を授業内容を超える水準で示すことができる。	TOEIC 基本対応に関する能力を示すことができる。	TOEIC 基本対応に関する能力を不十分ながら示すことができる。	TOEIC 基本対応に関する能力を教員等の支援を得て示すことができる。	TOEIC 基本対応に関する能力を教員等の支援を得ても示すことができない。

⑨ 学習の到達目標 (評価項目) とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標 (評価項目)	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	15%	10%			25%		100%
(i) 英文法の基本事項理解 (米百俵ドリルを含む)	20%		10%			10%		40%
(ii) スピーキングとヒアリングの基本的理解	20%	10%				10%		40%
(iii) TOEIC 基本対応	10%	5%				5%		20%
フィードバックの方法	試験・小テスト・課題は助言をつけ継続的水準向上につなげる。							

⑩ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
英語は、グローバル化時代に生き活躍する使命を有する未来ある若者にとって、マスターすべき世界語である。英語基礎力を固めつつ、一流のトピックスを扱った英語資料等も紹介したい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション・英語の特徴	英語の特徴に関するレポート作成	120分
2	英語の言語構造の本質	配布資料関連自習課題	120分
3	文法理解トレーニングⅠ	配布資料関連自習課題	120分
4	文法理解トレーニングⅡ	配布資料関連自習課題	120分
5	文法理解トレーニングⅢ	配布資料関連自習課題	120分
6	スピーキングトレーニングⅠ	配布資料関連自習課題	120分
7	スピーキングトレーニングⅡ	配布資料関連自習課題	120分
8	スピーキングトレーニングⅢ	配布資料関連自習課題	120分
9	ヒアリングⅠ	ヒアリング自習課題	120分
10	ヒアリングⅡ	ヒアリング自習課題	120分
11	ヒアリングⅢ	ヒアリング自習課題	120分
12	TOEIC 対応トレーニングⅠ	TOEIC 自習課題	120分
13	TOEIC 対応トレーニングⅡ	TOEIC 自習課題	120分
14	TOEIC 対応トレーニングⅢ	TOEIC 自習課題	120分
15	前期まとめ	グローバル・トップレベル・トピックス関連資料に関するレポート	180分
16	文法応用トレーニングⅠ	Power Base 自習課題	120分
17	文法応用トレーニングⅡ	Power Base 自習課題	120分

18	文法応用トレーニングⅢ	Power Base 自習課題	120分
19	スピーキング応用トレーニングⅠ	Power Base スピーキング活用課題	120分
20	スピーキング応用トレーニングⅡ	Power Base スピーキング活用課題	120分
21	スピーキング応用トレーニングⅢ	Power Base スピーキング活用課題	120分
22	ハイレベルヒアリングトレーニングⅠ	Power Base ヒアリング活用課題	120分
23	ハイレベルヒアリングトレーニングⅡ	Power Base ヒアリング活用課題	120分
24	ハイレベルヒアリングトレーニングⅢ	Power Base ヒアリング活用課題	120分
25	TOEIC 対応トレーニングⅣ	TOEIC 自習課題	120分
26	TOEIC 対応トレーニングⅤ	TOEIC 自習課題	120分
27	TOEIC 対応トレーニングⅥ	TOEIC 自習課題	120分
28	英語圏と世界を知るための資料学習Ⅰ	英語圏関連学習資料に関するレポート	120分
29	英語圏と世界を知るための資料学習Ⅱ	英語圏関連学習資料に関するレポート	120分
30	まとめ	グローバル・トップレベル・トピックス関連資料に関するレポート	180分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。講義で毎回の学習課題のコアを理解し、授業外の自習によってそれらコアの徹底した定着をはかる。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性